

[2] 全体概況（現代文）

大問数・解答数	大問数：2 題	解答数：20 問	
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ	○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評</p> <p>評論については前年並み。小説については、昨年よりやや難化している。評論・小説とも選択肢が例年に比べると短くなったが、特に小説では単純な本文照合では正解に迷う選択肢がいくつか見られた。文意の正確な把握が求められている。表面的にキーワードだけを追うような安易な読み取りでは、選択肢の判断に苦しんだ受験生も多かったのではないかと推察される。</p>			

[3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	鷲田清一「身ぶりの消失」	50 点	空間と身体の関係についての評論文。機能別に割り当てられた近代の一義的な空間と、身体との相互性において多義性をもつ空間との対比に基づく文章である。本文には様々な空間が出て来るが、基本的には上記の対比関係が貫かれている。
第2問	加藤幸子「海辺暮らし」	50 点	表現の意味を問う問題が多かったという点で、前年と同様であった。会話が長く、市役所の梶氏とお治婆さんとのやり取りの中から、両者の関係や、お治婆さんが立ち退きを迫られている事実が正確に把握できたかがポイントである。

[2] 全体概況 (古典)

解答数	古文：6題・8問 漢文：6題・9問
問題の分量 (対昨年比)	古文・漢文：● 多い ○ ほぼ同じ ○ 少ない
出題作品ジャンルの変化	古文：● あり ○ なし 漢文：○ あり ● なし
出題形式の変化	○ あり ● なし
新傾向の問題	○ あり ● なし
<p>総評</p> <p>【第3問 古文】 毎年出題されていた和歌を含む文章が、今年はお題されなかった。新課程以降のセンター試験では初めて、軍記物語から出題された。高校教科書にはあまり採録されていない作品ではあるが、古文を受験する生徒であれば、一度は解いたことのある作品だと思われる。文字数が、約1900字と過去最大の長さであった09年度より、さらに長くなった。</p> <p>【第4問 漢文】 04年度以降続いている説明的文章が出題された。文字数は208字と、05年度以降初めて200字を越えた。本文中に内容読解に関する空欄補充問題があり、前段落の具体例をまとめられないと解答できなかった。問6の文章全体を問う問題が、文章構成を問う設問と筆者の意図を問う問題に分かれたため、設問数が1問増えた。</p>	

[3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第3問	古文『保元物語』(軍記物語)	50点	文章全体は長文化したが、2段構成の段落のあらすじが前書きに説明されており、文脈は掴みやすかったと思われる。登場人物が多い文章であるが、系図が掲載されており、注意深く読めば、混乱することはないと思われる。 設問は、オーソドックスで、説明問題も解答根拠が傍線部の直前にあり、解きやすかった。 文章の長さに圧倒されず、スピーディに解答できれば高得点が期待できる。解答の時間配分が鍵である。
第4問	漢文『金華先生文集』(評論)	50点	3段落構成の文章で、問6の段落構成を問う問題が内容理解のヒントとなるが、「問題提起→具体例→筆者の主張・意図」という典型的な構成で読みやすかったと思われる。出典は、なじみないものであるが、注1～4から「儒家思想」を説いたものであることに気付けば、問題なく読み進めることができる。